

鹿角ゼロカーボンラジオ Nice Action!

第14回（1月14日（火）放送分）の概要

今回も、電気自動車についてお話を続けます。

電気自動車って、私たちの生活にまだまだ浸透していない気がします。充電ポイントも少ないですし。

そうですね。ということもあって、普及のための公的な支援がいくつかあります。

まず、国の支援です。具体的には一般社団法人次世代自動車振興センターが実施している補助金です。車の販売店に行かれた方は聞いたことがあるかもしれないですね。細かい条件は省略しますが、これにより電気自動車の初期費用の負担が軽くなります。

また、充電できる場所や充電器の数が少ないという課題を解決するために、充電器設置に係る国の補助もあります。これは、公共施設や事業所向けの支援となります。

そうすると、道の駅やスタンド以外でも充電できるところが増えてきそうですし、車の購入台数も増えるかもしれません。

そして、鹿角市の取り組みとしては、主に普及啓発に係る取り組みを実施しています。例えば昨年10月14日にはEV試乗会を道の駅あんとらあで実施し、市民のみなさまに電気自動車を体験いただいています。また自動車の走行可能距離などの質問をその場でいただいて、情報提供もしました。そして、体験いただくという意味では、コムスという1人乗りの電気自動車の無料貸し出しも実施中です。

電気自動車についても、地域が元気になるための手段として活用するというやり方がよいなと思っています。この点、いくつかの好事例があります。

例えば、岩手県の陸前高田市では、低速の電気自動車を利用した公共交通サービス、いわゆるグリーンスローモビリティというものを実施しています。具体的には、6人乗りの小型電動バスを、住宅地と、スーパーなどがある中心地とを結び、地域の方に利用してもらうというものです。

この事業の目的のひとつは、移動手段を持たない高齢者の方などにスーパーなどに行く交通手段を提供するといったものです。

もちろん、それにより地球温暖化対策にもなりますし、さらにスーパーなどで行われているスローショッピングの利用者も増え、高齢者の孤立解消にもつながるということで、相乗効果が大きいものとなっています。

新たな移動手段が見つかる、買い物もできる、お友達と出かけられる。これはうれしいですね！

はい。また、電気自動車のカーシェアリングを、自治体も参画しながら実施しているところもあります。この場合、平日は電気自動車を公用車として使い、土日は観光や買い物などで市民に貸し出すといったような運用を行い、車の稼働率を上げるとともに、地球温暖化対策にも資するものとなっています。

車は、ガソリン代だけでなく買ったあとの維持費やメンテナンス費用もかかります。であれば必要な時だけカーシェアリングするものも、お得な選択ですね。家計にも環境にも優しいというのがわかりました。

電気自動車は、もちろん課題もあるのですが、地域活性化のために役に立つ可能性も多いにあるといえますね。

だんだんとCO2削減が地域の元気に結びついていることが理解できてきました。